

通告 2 番、5 番議員、諸星光浩君。

5 番 通告 2 番、5 番議員、諸星光浩です。通告に従い、

1、相和ブランド創出事業の進捗状況と今後の進展について。

2、当町における未病関連の事業展開について。

3、大井町シティプロモーションについての質問項目で、まちの考えを伺います。

当町では、平成 23 年度より、大井町第 5 次総合計画おいきらめきプランに基づき、ひとづくり・まちづくり・未来づくりの実現に向けた施策を推進して、平成 28 年度から、後期基本計画のもと、第 3 次実施計画を実施してきました。

その成長戦略の相和ブランド創出を構成する幾つかの施策が計画されて、実施されてきたが、平成 30 年度で第 3 次実施計画の最終年を迎えるに当たり、幾つかの施策について、進捗状況と今後の展開について伺います。

細目 1、相和活性化委員会の活動。

細目 2、6 次産業化に伴う農産物やご当地弁当のブランド化と販売事業。

細目 3、相和地区の幼稚園・小学校運営の活性化。

細目 4、交流体験事業と交流人口の増加事業。

次に、「未病の戦略的エリア」神奈川県西地域の拠点施設として指定された「未病いやしの里センター（仮称）」が、昨年 6 月に、「BIOTOPIA me-byo valley」と命名され、今月、3 月には県による展示施設がオープンされるなど計画に沿って進められている。

現在、当町の独自事業として、「笑い笑顔」や「いきいき・おいおい・健康ステーション」に活動量計、健康状態の測定機器を購入設置し、未病改善の事業展開をしているが、未病を治す領域には至っていないと思われる。そこで、今後の事業展開を伺います。

最後に、当町のシティプロモーション事業として「すいっぴー」ソングや短編映画の製作発表とご当地ナンバープレートの発行などを行ってきており、先月にはキャッチコピーやロゴマークの投票が行われてきました。キャッチコピーやロゴマークの候補決定までの経緯と今後のシティプロモーションの展開について伺います。

以上、登壇での質問といたします。答弁、よろしくお願いいたします。

議 長 答弁願います。町長。

町 長 通告 2 番、諸星光浩議員の質問で、大きく 3 点。

1 点目につきましては、詳細を 4 点頂戴しておるわけでございます。

まず、1 点目の 1 でございますが、まず、相和地域の活性化委員会は、相和地域の団体の代表、代表自治会長、農業委員代表、有識者、副町長の 9 名をもって構成しております。

現在、この委員会は具体的な事業についての検討ではなく、相和地域の活性化に関する事業の方針や進捗状況、町予算や国県補助金についての活用方針等について審議をいただいているところが主な活動内容となっております。

なお、具体的な事業の検討や提案、実施については、相和地域活性化委員会の下部組織である「検討部会」が行っておるというような状況でございます。

このような構成になったのは、過去の委員会において、具体的な事業展開は現場で実際に活動する相和地域のやる気のある若い住民が意見を出し合い、みずから実践していくべき、との提言があったからでございます。

このため、ご質問の「相和ブランドの創出」に関する事業の推進は、検討部会が中心となっており、その主な活動成果といたしましては、現在進めております交流体験事業の着手や推進、さらに発行いたしました「相和地域の情報誌」の作成などが挙げられておるところでございます。

交流体験事業につきましては、先ほどの瀬戸議員の質問に対する回答のとおりでございます。地域資源を活用した体験を都市住民等に提供するこの事業は、さまざまな事業効果が期待されていることから、地域の活性化の中心となる事業と捉え、現在は本検討部会の活動としての柱となっております。

相和情報誌につきましては、相和地域の魅力を PR することにより、相和地域への誘客とともに交流体験事業への誘客を図ることを目的とし、作成したものでございますが、多くの方から評価を得ておるところでございます。このように、相和地域の情報提供を積極的に行いながら、交流体験事業をさらに充実させてまいりたい、そんな考えでございます。

次の2のご質問でございますが、この代表的な事業といたしましては、大井スイーツセレクション事業でございますが、町内の農産物を活用したスイーツの売り上げは、平成26年度は約113万円でしたが、平成27年度は約145万円、平成28年度は約176万円と、年々右肩上がりとなっておりますのでございます。

なお、フェイジョアを使ったスイーツは、毎年度、新たなものが開発されており、平成28年3月から販売されたフェイジョアアイスにつきましては、平成28年度の出荷個数は1,980個、平成29年度は1月時点で800個となっております、スイーツ以外でも、今年度5月に販売をしたフェイジョアカレーは、現在までに317個の出荷となっております。

このようにフェイジョアを原料とした商品開発は活発ではありますが、スイーツ事業も含め顕著な成果が観られないことから、今後も関係事業者と連携し、商品開発・販売促進を図り、ブランド化に努めてまいらなければならない、そんな考えでおります。

次に、ご当地弁当の取り組みでございますが、当弁当は平成28年3月に都内の大学との連携で開発したものでございます。このレシピを町内事業者を引き継いでいただき、町内の農産物を使用し、製造販売してもらうという事業予定をしておったところでございます。

そのため昨年度、町内事業者等を対象とした事業説明会を開催しました。しかし、開発に参加していない点、固定されているレシピを取り扱うことへの抵抗感から事業に着手する方が見つかりませんでした。四季の里まつりで販売しておりましたが、開発時に関わった箱根町の弁当事業者に生産を依頼したものでございます。

さらに、開発した大学からは製造販売する上で大学の名称は出さないようにとの要求が出されたことや、弁当自体の売り上げが低下している状況を鑑み、改めて町内事業者による開発と製造販売を行うという方針に切り替えの検討を進めているところでございます。

この取り組みは、近隣自治体を参考にし、固定のレシピに縛られず、町内産農産物の使用など、一定のルールを設けながら、事業者ごとに独自のメニューを開発してもらう形式としております。こうした方針の中で、2月25日の里

山花まつりの際に、町内業者によるご当地弁当として試験的に販売しております。

今後は、町内の参入業者の増加や開発された弁当の積極的な情報発信により、事業の推進を図ってまいりたい、そんな考えでございます。

なお、その他にも、そばや地酒などの積極的な取り組みもございますが、関係者や関係団体と連携し、さらなる事業拡大を図ってまいりたい、そんな考えでございます。

続いて、3点目の相和地区の幼稚園・小学校運営の活性化でございますが、第3次実施計画では、「相和地区の幼稚園・小学校運営の活性化」を目指し、幼稚園では「相和幼稚園通園区域の見直し」について、小学校では「小規模特認校制度の実施」、「放課後教室の実施」及び「ICT教育環境の整備」の3点について取り組んでまいったものでございます。

1点目の「相和幼稚園通園区域の見直し」では、平成27年度より通園区域を町内全域にするとともに、早朝保育、延長保育、長期休業保育など、さまざまな保育ニーズに対応してまいっております。また、全学年に給食を提供したり、区域外から通園する園児を対象に大井町役場から通園バスを利用できるようにしたりするなど、魅力ある園運営を目指した結果、今年度は区域外より3人が入園されました。現在は、全園児14人中、7人が区域外より就園しているという状況でございます。

2点目の「小規模特認校制度」は、平成28年度より相和小学校で開始しました。この制度は、地域の自然や伝統等の恵まれた環境を生かし、少人数によるきめ細やかな指導や特色ある教育活動を行っている小規模校において教育を受けさせることを希望する保護者に対して、就学すべき学校の指定を変更するものであり、現在は町内全域から相和小学校へ就学できるようになっています。

町ホームページでは、本制度の周知や相和小学校からのお知らせなどを掲載し、あわせて広報おいでも、制度周知とともに、「まなびやそうわ」のコーナーも設け、相和幼稚園や相和小学校の教育方針や子どもたちの学びの様子、学校行事について積極的にお知らせしてまいりました。

今年度は、相和地区以外から2人が入学し、現在は、相和地区以外から4人の児童が相和小学校に就学しております。

3点目の「放課後教室の実施」でございます。この教室は、相和小学校に就学している児童を対象に、放課後等に同校の施設を活用して、学習、スポーツ並びに遊び等をする場を提供し、児童が心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するために、平成28年度より実施しております。

実施時間は稼業日の放課後から午後6時30分までを基本とし、学年始休業、夏季休業、冬季休業、学年末休業及び振替休日も午前8時から午後6時30分まで行っております。

特に夏季休業中には、陶芸やピザ焼き、和太鼓の演奏等の体験的活動も多く取り入れ、魅力ある放課後教室の運営を進めた結果、平成28年度は79人中67人、平成29年度は73人中59人が入室したものでございます。いずれの年も全校児童の8割を越える児童が放課後教室を活用しておるといような状況にあります。

4点目の「ICT教育環境の整備」については、平成27年度に相和小学校にICT機器として、タブレット端末40台、電子黒板3台を導入し、校内無線LANのネットワークの整備を行ったものでございます。タブレットと電子黒板を利用した授業は、導入から約3年が経過し、児童も教師もさらに積極的な活用をしており、情報共有や相互の比較など学習環境の幅が広がっており、情報共有や相互の比較など学習環境の幅が広がっているという認識を持っているところでございます。

なお、昨年の広報おおい8月号にて、「相和の魅力は？」と題し、特集ページを作成した際には、区域外から就園・入学した保護者から、自然に囲まれた環境や少人数であることを生かした縦割りグループの活動など、先に述べた取り組みとともに一定の評価をいただいております。

また、そのような保護者が相和地域に住みたいというようなこともあるわけで、引き続き、相和幼稚園、相和小学校の魅力を育てながら発信していくことで「相和ブランドの創出」の一翼を担ってまいりたいと考えておるところです。

4点目の御質問につきましては、通告1番、先ほどの瀬戸議員の内容と重複しておりますので、ここで答弁は割愛をさせていただきたいと思っております。

大きな2点目のご質問でございます。

本町における「未病を改善」する取り組みといたしまして、大井町第5次総合計画後期基本計画、大井町成長戦略の一つに位置づける「次世代産業の共創と連携」において、「未病バレー『ビオトピア』」における未病関連産業の集積や育成の支援、地域産業との事業連携の促進による新たな産業と雇用の創出を目指すとともに、「未病バレー『ビオトピア』」と町が推進する健康・福祉・スポーツ等の施策との連携により、町民の健康寿命の延伸を図ることを目的として、取り組みを進めておるところでございます。

現在、「未病の戦略的エリア」である県西地域の拠点施設として、「未病バレー『ビオトピア』」の第1期オープンに向け、神奈川県、株式会社ブルックスホールディングスとの連携のもと、取り組みを進めるとともに、本町としても未病の改善を促進し、健康長寿のまちづくりに向けて事業を展開しているところでございます。

本町が進める「いきいき・おおい・健康ステーション事業」では、健康状態の測定機器を設置し、手軽に健康状態等をチェックし、「見える化」することができ、その結果に基づくアドバイスや「未病改善」の取り組みのための情報提供を行うとともに、定期的に利用促進に向けた測定機器の利用説明会を開催するとともに、「未病の改善」につながる健康的なライフスタイルの実現に向けた講習会等を開催しておるところでございます。

また、株式会社よしもとクリエイティブ・エージェンシーとの包括協定により取り組みを進めている「笑顔から健康長寿のまちづくり事業」では、未病の普及促進に努め、「未病を改善」する取り組みの一環である「笑い」を通して、町民の健康づくりを促進しております。

未病観光コンシェルジュとして、株式会社よしもとクリエイティブ・エージェンシー所属の「スベリー・マーキュリー」を大井町笑顔特派員として任命し、町が主催する各種イベントや町の各種団体のイベントにも参加し、町民の皆様へ「笑顔」を発信しております。

昨年10月に未病フェスタと題しまして、笑顔と運動で未病を改善するイベントを開催いたしましたが、今年度においても「未病フェスタ 2018 春」を明日、開催いたします。

また、「未病バレー『ビオトピア』」の第一期オープンを4月に迎えますが、4月から6月にかけては本施設の周知強化月間と位置づけ、集中的にイベントを開催することを神奈川県及び株式会社ブルックスホールディングスと3者において検討を進めておるところでございます。

来年度におきましても、本施設の周知及び未病改善の意識啓発に寄与するイベントは継続的に開催していく予定でございますが、これまでと同様に、3者連携のもと、また県西地域2市7町の協力を得ながら、引き続き県西地域の拠点施設となる本施設において「未病を改善」する取り組みへの意識啓発を図ってまいるということでございます。

続いて、「未病バレー『ビオトピア』」において、株式会社ブルックスホールディングスが事業展開をするウォーキング事業についてですが、どんぐり遊歩道をウォーキングコースとして再整備することとあわせ、健康なライフスタイルへの「気づき」となる、「未病を見える化」するためのツールとして、モバイル端末に対応する活動量計や、運動前後の「心と身体（心身）」の状態を計測するヘルスケア機器の購入に対して補助を行っております。

これまでの活用実績としては、リニューアル工事前の旧売店棟内にブースを設け、売店の利用者を対象に計測体験を実施いたしました。また、第一期整備を終えたウォーキングコースにおいても、リストバンド型の活動量計を装着し実際に歩いていただいております。

他には、各種イベントでの計測体験、4月のオープンに向けたさまざまなプログラム設定のためのデータ収集利用、ブルックス原宿カフェを「未病カフェ」にリニューアルオープンした際に、本施設の周知とあわせて、計測体験を都内で実施しております。

ウォーキングコースは第一期オープンの4月に合わせて、「森林セラピーロード」の認可申請中であります。森林セラピーは「科学的根拠に基づいた森林浴」であり、体験者にビフォー・アフターのエビデンスを示すものであります。が、大学と共同で森林浴の効果を数値上で実証する実験も行っております。

これまで、広く町民を対象とした体験会は、本施設の改修工事もあり、実施回数は少ないものですが、「未病バレー『ビオトピア』」の第一期オープン以降、ブルックスにおいて月2回程度の森林セラピーを計画しており、引き続き、

4月のオープンに向けたウォーキングコースの第二期整備、具体の利用申し込み方法等の検討を進めております。

「未病バレー『ビオトピア』」は、株式会社ブルックスホールディングスが主体となって整備する「にぎわい」を生む商業施設の他に、神奈川県が設置・運営する県展示施設が整備されます。未病を知り、ライフスタイルを楽しみながら見直す「気づき」と「きっかけ」を与える施設として整備されますが、その機能の一つに、県西の豊富な地域資源の情報を入手できるコンシェルジュ機能がございます。

まず、県展示施設のコンテンツを利用し、自分の身体の状態を知り、それぞれの状態に合った未病の改善につながるコンテンツをビオトピア内で体験することや、県西地域内の未病を改善するコンテンツ、食・運動・癒しがそろった未病いやしの里の駅やウォーキングコース、各市町の未病センターにつなげることにより、県西地域全体に回遊性が生まれるものと考えております。

「未病バレー『ビオトピア』」は段階的に整備が進められ、今後は温泉や宿泊施設も整備されていく計画となっており、町が進める事業もあわせ、短期の成果ではなく、中長期的な取り組みが必要と考えております。

これまではハード面を整備するための法的課題を解決することが主となっておりますが、いよいよ4月に第一期オープンを迎えます。引き続き、お笑い等の町事業だけではなく、神奈川県・ブルックス・県西地域2市7町と連携し、「未病改善」をキーワードに「にぎわい」の創出を図るとともに、「未病を改善」するライフスタイルの構築に向け、継続的な事業として展開して行く考えでございます。

3点目のシティプロモーションについてでございますが、「大井町シティプロモーション」は、「大井町シティプロモーション推進事業」として、今年度から事業として取り組みを進めているものでございます。

大井町では、全国的な例に漏れず、人口減少・少子高齢化が進んでおり、その傾向に歯止めをかけるため、大井町総合計画における「成長戦略」を中心とした各種施策の推進及び大井町まち・ひと・しごと創生総合戦略に位置づける各種施策の展開により、地域活性化に向けた「まちづくり」に取り組んでおります。



しかしながら、よりよい「まちづくり」を目指すためには、行政が主体的に事業を行うだけでなく、町民の方々にも町に興味を持っていただき、ともに「まちづくり」に取り組んでもらうことが重要だと考えております。

こうしたことから、町民の方々とともに、「まちづくり」を推進していく取り組みを通じて町に興味を持っていただき、「まちづくり」に参加していただくことで、町内に住んでいるの方々には「大井町に住み続けたい」というシビックプライドの醸成を図り、また、こうした取り組みが町外に広まることで、「大井町に住んでみたい」という気持ちを抱かせることを目的として、本事業に取り組むこととした次第でございます。

本年度は、その最初の取り組みとして、大井町のイメージキャラクター「すいっぴー」のキャラクターソングとダンスの制作や、町民と「よしもと」のコラボレーションによる「ふるさと劇団」の旗上げ、笑顔特派員「スベリー・マーキュリー」による町のPR動画「バイシコー探訪」の制作と町内外へ向けた発信を行っております。

さらには、シティプロモーションの展開に向けたワークショップを開催し、町の魅力の掘り起こしから、キャッチコピーやロゴマークの制作に向けた取り組みを進めております。

ワークショップへのメンバーは、昨年9月に、町の広報誌やホームページ、町内回覧により町民の方に参加を呼びかけ、また、町内企業にも参加を呼びかけたところ、約20名の応募があり、町の若手職員と合わせた約30名の構成となっており、また、キャッチコピーやロゴマークについては、「大井町ってどんなところ？」と聞かれた際に、大井町の魅力を一言で言いあらわせること、さらに今後の事業展開へもつなげていくことを踏まえ、制作することとしたものでございます。

まずは、キャッチコピーやロゴマークの投票を2月に行った経緯でございますが、ワークショップを通してまとめたキャッチコピーやロゴマークの5案をお示しして、1月の産業まつりを皮切りに、2月1日より役場庁舎や生涯学習センター等において、投票の受け付けを行いました。また、町内企業の皆様に対しても、投票にご協力いただいたところでございます。

このキャッチコピーやロゴマークの案は、ワークショップを通じて出されたものでございますが、シティプロモーションの取り組みは、町民の方々と行政がともに推進していくことがよりよい「まちづくり」につながることから、できる限り多くの町民の方々からのご意向を反映したいとの思いで投票を受け付けることとした次第でございます。

次に、「今後の展開について」でございます。シティプロモーション事業は短期間で完結するものではなく、継続的に行うことが重要であると認識しておるところでございます。そのためにも、引き続き町民の方々との対話の場として、「まちづくり」に向けたワークショップを開催していきたいというように考えております。

このワークショップを通じて、大井町の魅力や未来について、老若男女問わず町民の方々が語り合い、町にとって必要なことを考え、そして町民の方々がみずから積極的に「まちづくり」に参加してもらえよう事業展開をしていきたいと考えております。

今後、今年度制作したロゴマークやキャッチコピー、大井町イメージキャラクター「すいっぴー」のキャラクターソングやダンス等の浸透を図り、町内外への町の魅力発信にもつなげていきたいと、そんな考えでおります。

以上、長くなりましたが答弁とさせていただきます。

5 番 ご答弁いただきましたので、再質問に入らせていただきます。

まず、相和活性化委員会の活動ということで細かく答弁いただきました。

この活性化委員会という名前が、結構いろんなところで出てくるんですが、こういった役割をしているのかなというのがわからなかったことと、ほかのいろんな会があるんですけど、そことの関連性をお聞きしたいということで、先ほど自治会長さんと農業委員さん、相和のですね、副町長で構成されているということで、相和に関してのその補助金の検討ですとかという話はわかりました。

あと、活性化検討部会というものが実際の活動部隊だというお話だと思うんですけども、この活性化委員会に、検討部会のメンバーが、先ほどの答弁だと含まれていないのかなというふうに聞き取れたんですが、通常、活性化検討部会が、活性化委員会の下部組織として検討部会があるのであれば、当然、活

活性化委員会の意向を検討部会が受けて詳細の部会で検討していくと、で、活動すると。

その成果に関して、検討部会でP D C Aサイクルなどで検討した結果をまたフィードバックしていくという流れになるのかなと思うんですが、活性化委員会の中に検討部会のメンバーが含まれているのかいないのか、また、その検討部会での実行内容をどのような形で活性化委員会にフィードバックされているのか、お尋ねします。

地域振興課長

まず、検討部会のほう、いろんな事業のフィードバックといいますか、そういう関係につきましては、常に、常にといいますか、相和活性化委員会の会議ごとに詳細に報告しておりまして、それをもとに今後の方針とかも御審議いただくというふうなことで、とにかく活性化委員会、それから活性化検討部会との間の情報は密に行っているところであります。

ところで、メンバーはということですがけれども、検討部会のメンバーが相和活性化委員会に入っている現状ではありません。ただ、事務局としては同じ地域振興課でございまして、その辺は事務局を通して情報は密にしているという状況でございまして、場合によっては、検討内容によっては検討部会のほうから出席をしてもらうということも過去には行っております。今後も必要に応じて出席は求めるという体制にございまして。

以上です。

5 番

これに当たっては、相和活性化委員会の議事録ということで、先般、公開していただきまして、読ませていただいたんですが、今、課長がおっしゃったように、過去にはあるということで、この2年間の議事録を見ていると、どうも活性化委員会のメンバーがおっしゃられていることと検討部会で実際に活動されている内容の議事録、要は、当然、大枠を活性化委員会がやっているので、細かいところまで入らないと思いますけど、やったものに対してのフィードバック、再検討っていうような議事録が載ってなかったんですね。ですから、お聞きしたんですが、今後なんですけどね、やはりせっかくこういう委員会のメンバーさんと検討部会の実際に活動されてるメンバーがいらっしゃるわけですから、そこはやっぱりもっと意見交換できる場とかですね、下からですね、要求になるのかな、よくわからないですけど、そこが密にもうちょっと連携を取れるよ

うな、方向づけにしてもらったほうがいいのかなと感じますが、いかがでしょうか。

地域振興課長

済みません。その密に、議事録を見てのお話かとは思いますが、かなりその実績等につきましては、情報を提供しているというふうに事務局としては思っております。活性化委員会のほうも委員の方もかなり情報提供をさせてもらってるので、理解していただいているかなというふうには、私は思っておりますけれども。じゃあ会議の中でですね、検討部会のメンバーが入っていただければ、より詳細な話もできるかと思うんですけども、現状においてはですね、特にそういった不満と言いますかね、そういった意見もございませんし、ただやはり先ほども申しますように詳細にわたってですね、報告すべきときはですね、出席いただくと、近年ないという、言いますと確かはないのかもしれないですね。やっぱり出席いただいて詳細に考えている意見をですね、説明したいということがあればですね、それを積極的に行おうと思います。以上です。

- 5 番 いただいた議事録見ますと、検討部会のほう、結構詳細な議事が残ってますから、例えばそれを委員会のメンバーに見てもらうだけでも大分違うのかなと思いますし、その辺の意思が疎通できてれば、例えば県、国県の補助金をどうやって使っていくかっていうところも、相和の委員会さんと検討部会の皆さんが、同じような意識づけでできるのかなと思います。

今ですね、若干かもしれないですけど、平地の方も入ってるかもしれませんが、私は相和の良さっていうのはね、相和だけの人知ってるわけじゃなくて、平地っていうんですかね、平野部に住まわれてる方も相和の良さを知ってる人もたくさんいると思うんですね。ですからそういった人が平地から見た相和の良さを知ってる人を交えてですね、もっと相和の良さを発信していく上で、絡んでもらったほうがいいのかな、もうそういう時期にきてるのかなと思うんですね。というのは、結構その検討部会さんもそうなんですけど、結構活動が増えているんですね。受け皿もできていると思いますから、そこにやっぱり町全体で、若い人たちがそういう活動に入っていくと、町全体で相和っていうものを見つめて、相和の活性化につなげていくという時期にきているんじゃないかと思うんですが、その辺の意見を地域振興課長どうでしょうか。

地域振興課長

今現在の検討部会のほうでも確かに一部平地の方も入っていただいております。当初から、やはり相和の方のみで行うというのも、そう理解された方が加わるというのは当然でございます、ただやっぱり外部から見た人も入るべきであろうということで加わっております、ただ少ないというのは、確かに御指摘のとおりだと思います。ただ、その例えばですね、ニールリーダーとかですね、そういったニールリーダーですね、その資格を取得された方もかなり平地からとってる方もいらっしゃるですね、いろいろと広く考えますと、相和地域外の方、相和に興味のある方、相和で既に活動されている平地の方もですね、広い意味では相和に加わっているという状況にはございます。

それで、今後の展開ということになりますと、やはり大井町、平地にもですね、まだまだ相和に興味がある方、相和での活動を行いたい方っていうのは、まだまだあるのだと思います。またメンバーにつきましてはですね、検討部会のほうのメンバーにつきましてもですね、折りを見てやはり拡大すべきではないかとか、またニールリーダーの資格をとられる方につきましてはですね、広く募集、そういった方法で検討してまいりたいと思います。以上です。

- 5 番 先ほどですね、答弁の中にシティプロモーションのほうなんですけど、ワークショップで結構集まっていただけでもいらっしゃるの、そういう方たちが活性化検討部会のほうに入って、意見を述べてもらってもいいのかなと思いますので、その辺は検討してください。あとですね、今、地方創生推進交付金をベースに計画されていると思います。

1番最後にですね、今年度の議事録を見たんですが、農産漁村振興交付金っていう名前が出てきました。こちらは何か29年、30年度ということなんですけど、これと地方創生推進交付金の関係とまた、あと29年度にその農産漁村振興交付金というのは、いただいているのかどうかを確認します。

地域振興課長

まず、1点目の地方創生推進交付金につきましては、事業自体が町であるということで、交付金の交付先は大井町でございます。それで、もう1つの農産漁村振興交付金のほうはですね、これは行政に対するものではございませんで、地域の協議会等に対する交付金でございます。以前でも、議会、全員協議会のほうでも御説明した経緯もございますけれども、相和の盛り上げ

協議会というものを組織しましてですね、そちらで交付金を得て、そこが主体となった事業を実施してございます。じゃあ何に使っているかということでございますが、具体的にはですね、交流体験事業の実践の場にかかる費用ですね、例えば先ほども申しましたようにニールリーダーによるですね、メニューを試行的に実施するイベントの開催とかですね、あと民泊の開催ですね、そういったその実践における費用をこの協議会のほうで支出し、協議会が主催という形になりますが、支払っているということでございます。

地方創生推進交付金のほうはですね、その実践の場ではなく、やっぱり先ほど申しましたニールリーダーの育成、講習会とかですね、その他さまざまな勉強会の開催とか、そういったものを中心とした経費にかかっていくわけでございます。

今後、とりあえず、その農産漁村振興交付金のほうが、2年の期限であるということで、来年度のですね、同様に盛り上げ協議会、相和の盛り上げ協議会のほうに対して、交付金を交付いただいて継続的、今年度と同様のですね、体験事業の具体的なイベントの開催経費として、あてていくという計画でございます。以上です。

5 番 よくわかりました。交付金は別としても、うまく活用していただければいいかなと思います。

次にですね、農産物はフェイジョアのスイーツセレクション事業等、年々増えているということではありますが、最終的にはですね、生産農家、ここが潤っていく必要があるのかなと思います。それに対してフェイジョアだけでいいのかなという話もちらほら聞かれますし、逆に結構販売されているなという割にはですね、いまだに町民でフェイジョアって何っていう人がいるんですね。ですから、その辺のもうちょっと何て言うんですかね、浸透させるっていう話ともう1つね、フェイジョアだけじゃなくてほかの農産物もかけ合わせて、一緒に動いていくと、町民の興味を受けたりするのかなと思うんですけど、ほかの農産物のですね、6次産業化フェイジョアと一緒に何かやっていくというお考えはないでしょうか。

地域振興課長 いろいろフェイジョアだけではなくてですね、例えば大井スイーツの事業につきましても、フェイジョアだけではございません。みかんがあつたりと

かですね、ゴボウがあったり、それからいちじくがあったり、そうですね、あとはさつまいも、ブルーベリー、さまざまなものが扱われているということでございます。特に大井町は、フェイジョアの特産物化を図ろうということで、いろいろとそこにはほかと比較して力を入れているということですが、フェイジョアにつきましてはですね、業者のほうも、業者と言いますのは、和菓子屋さんであったり、洋菓子屋さんであったり、パン屋さんであったり、そのところをですね、非常に興味深くと言いますか、いろいろなものを毎年、新たなものを開発していただいているということと、それから商工会が中心となって、フェイジョアアイスを開発したりとか、事業者及び商工会のほうで、特にいろいろと努力いただいているという状況でございます。そんな中で、例えばアイス、フェイジョアアイスというものをつくりましたけれども、そのほかにも、希少な湘南ゴールドアイスとかですね、そういったものもつくってはおりまして、少しずつではございますけれども、幅は広げているというふうなことでございます。

あとは、町のほうからも、これだと、これを広げようとあんまり主導的にやるよりも、やっぱり農業者のほうがこういったものを活用したいというふうな、そういったやはり気持ちがあつてこそだと思います。そういった町からももちろん、こういったものはどうであろうかとそういう提案は積極的に行いつつ、また農業者からも、こういったものを扱ってほしいということがいただければ、もちろんそちらも協力するというふうな体制をとっております。ちょっと回答が不十分かもしれませんが、以上でございます。

5 番 すみません。細かくいただいてすみません。ちょっと時間がなくなりましたので、ちょっとほかの質問に移らせていただきます。

まず、未病のですね、町独自の事業ということで、今、お笑いと笑顔でメンタル面の効果がある事業をやっただいてまして、フィジカル面では計測機械など、現状把握できるものを入れていただいています。ですが、ここで指導をしたりしていただいても、直接そう普段の生活と食生活に絡んでないような気がするんですね。そこで、例えば今の子育て健康課で、男性の料理教室であったり、簡単なクッキングセミナーなど、講習を開いていただいていると思うんですけども、食に関してもっとアピールしていただいて、大井町の食を使って

いただく。まして昨日の新聞ですか、はるみというブランドが、2年連続特Aをとったというね、それは去年から大井町も農家の方はつくられていますけれども、例えばそういうのをうまく使って、健康につなげていく食育って言うんですかね、そういう講義をどんどん増やしていったらどうかなと思うんですが、その辺いかがでしょうか。

子育て健康課長 議員のおっしゃる通りですね、食に関する教室等はですね、男の料理教室やほかの料理教室等を行ってございますが、今、未病センターにおいて、計測をしてどのような体質なのか、その辺について体脂肪の量だとか、その辺も考慮して指導を行うような形となっております。当然食に関してはカロリー計算等が当然必要になってきますので、町の食材を使ったそういった料理教室等も、また今後検討していければと思います。一概に、単純にこういう料理をつくってはどうかということに関しましては、やはり糖尿病の対策だとか、そういったことでも予防等を行っておりますので、栄養士等を含めて、その辺のイベント等は、教室等も今後、検討する必要があるのかなとは考えております。以上です。

5 番 今の何でこういう質問をしたかって言うと、やっぱり未病のビオトピアができて、おひざ元が大井町なんですね。ですから、ここはその未病を改善する健康である町にしていく必要があると思いますので、一つの提案なんですけれども、先ほどのその食育っていうところでね、乳幼児よりも逆に胎児から高齢者まで影響があるビタミンB群の葉酸っていうのがあるんですね、こちらが摂取量、最低摂取量なんですけれどもなかなか摂れない。これは、調理法によってはその葉酸が出てしまって、1日に必要な摂取量が摂れないということがあるんですね。ですからそれを、調理法を簡単なレシピでこうやったら摂れるよというような仕組みをつくってあげて、それで簡単に家庭内でもできる調理法を全町に広めてあげれば、家庭内できると思うんですよ。それで、この葉酸をやると、胎児に関しては神経管の閉鎖障害っていうリスクを避けられますし、高齢者に対してはその動脈硬化を予防して、心筋梗塞とか脳卒中、または痴呆症の予防にもつながるといふビタミンなんです。ですから、こういうのを検討して行っていただきたいなと思います。



すみません、それは提案ですので。最後に、先ほどの交流体験事業と絡んで、シティプロモーションですね、ここで最後の質問になりますけれども、もっとですね、せっかく大井町のフェイスブックをやり始めました。そしたら、やはり情報の発信っていうのをもっと強化するべきだなと思います。そのためには、その主力のイベントのときに、フォロワーがいっぱいいるブロガーっているんですけども、こういう人たちを集めてそして良さを発信してもらおうというような仕掛けができるのではないかと。それに関しては、あんまりお金がかからずにできます。メディア使うとお金かかるんですけど、そのブロガーっていうのは、興味ある人はどんどん写真とってですね、インスタグラムだとか、どんどん発信していきますから、そういうのも使っていったいいけないものかと思いますので、その辺もぜひ今後検討していただければと思います。

あと1点、この前の花まつりのときに、上大井に行ったときに客がいたんですが、そこから花まつり会場に行く案内が全くなかったんですね。その辺も考えていただければと思います。以上で、質問を終わります。